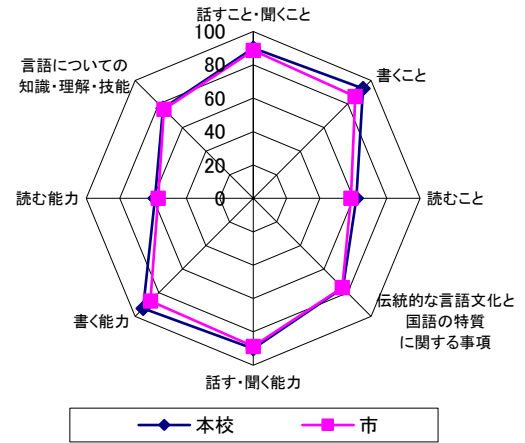


宇都宮市立横川中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	90.1	88.7	89.1
	書くこと	93.0	86.4	64.2
	読むこと	61.9	58.5	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.9	75.5	72.0
観点別	話す・聞く能力	90.1	88.7	89.1
	書く能力	93.3	87.1	66.7
	読む能力	58.9	56.9	55.0
	言語についての知識・理解・技能	76.3	75.6	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

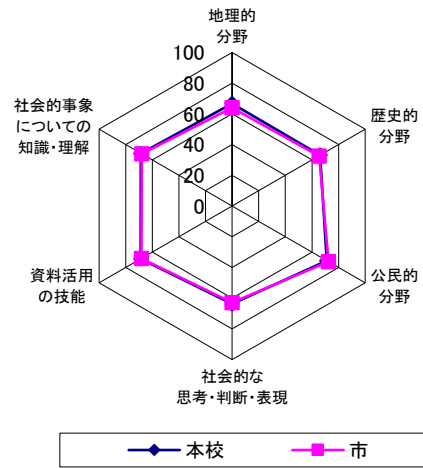
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○宇都宮市の平均より正答率が1.4%上回った。 ●司会者の工夫点を聞きとる問題がわずかに宇都宮市の平均を下回った。	・話し合いの仕方は身に付いているので、話し合いのときには、相手をよく見て話を聞き、その後大切なことをノートに書いておく習慣を付ける指導に重点を置く。
書くこと	○宇都宮市の平均より正答率が6.6%上回った。 ●作文の無解答率も極めて低かったが、まだ全員が解答したというわけではないので、その部分が課題として挙げられる。	・条件に沿った文章を書く力が身に付いたと考えられる。今後は向上を図るために指導を継続していく。作文を苦手と考えている生徒は、書く前に諦めてしまうことが考えられるので、意識的に要点を捉えるための学習を進める。
読むこと	○宇都宮市の平均より正答率が3.4%上回った。 ●説明文の文章の展開をとらえてその内容を整理し、まとめる問題の正答率が市の平均を下回っている。	・文学作品を読み取る力は向上しているため、今後は筆者がどのような意図でそのような表現を使ったかなどを考える必要がある。また、説明文の理解を深めるためにも、短い文章や韻文から表現の特徴を捉えるための指導に重点をおき、段落構成や筆者の要旨を捉えていくような指導をする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○宇都宮市の平均より正答率が0.4%上回った。漢字を書く問題では、市の平均を上回っている項目が多かった。 ●古典の内容を読み取る問題では、市の平均を下回っている項目が多かった。とくに歴史的仮名遣いの問題と文章の展開に即して内容をとらえることができる問題の正答率は市の平均を大きく下回った。	・日常的に使う漢字の読み書きだけでなく、中学生があまり使わない漢字の指導にも重点をおく。また、言語についての知識を増やすため、辞書を用いた授業を日常的に行う指導もする。 ・古典分野においては語句の意味をとらえる指導も多く行う。また、さまざまな古典の作品に触れさせる機会を設けたい。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	66.7	64.0	50.9
	歴史的分野	66.2	65.3	57.1
	公民的分野	71.1	72.4	67.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	63.7	62.9	52.3
	資料活用〇技能	68.8	68.2	58.1
	社会的な事象〇についての知識・理解	68.6	68.0	59.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

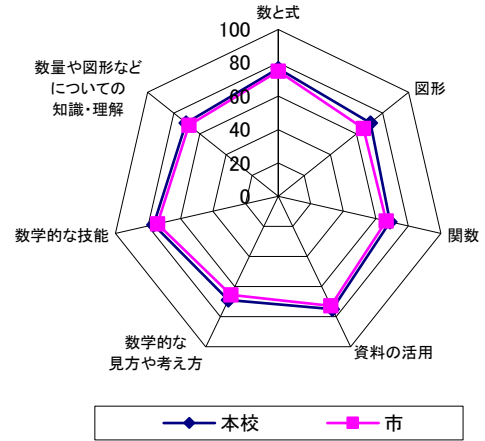
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○全体的には、市よりも2.7ポイント高い正答率となった。思考・判断・表現に関する問題と知識・理解に関する問題は、すべて市の平均を上回った。 ●世界の諸地域の問題では、地図から読み取り考察する問題の正答率が市の平均を下回った。	・ワークを中心に、基礎的・基本的事項の理解度を向上させたい。小単元テスト等も行い、基礎・基本のさらなる定着を図っていく。事象について考察させ、自分の力で表現する力も身に付けさせていく必要がある。資料の読み取りに関しては、デジタル教材を有効に活用し、グラフ等の変化や推移を視覚的に読み取らせるとともに、基礎的知識・技能を活用し、思考力や表現力の向上を図っていく。
歴史的分野	○全体的には、市よりも0.9ポイント高い正答率となった。資料活用〇技能に関する問題では、市の平均を2.6ポイント上回った。 ●思考・判断・表現に関する問題で、正答率が市の平均を下回る項目があった。	・人物名や出来事をただ暗記するのではなく、歴史的な流れと関連づけることを意識させることを継続していく。デジタル教材などを活用し、資料の読み取りや事象の考察など、歴史的な事象とその背景等を視覚的に読み取らせるとともに、思考力や表現力の向上を図っていく。
公民的分野	○「わたしたちの生活と現代社会」に関する問題の正答率は市平均を上回った。 ●全体的には、市よりも1.3ポイント低い正答率となった。「公共の福祉」に関する問題が、市の平均を10.3ポイント低い正答率となった。	・「憲法改正の手続き」や「法律案の成立」、「地方自治」に関する問題の正答率が低かったので、事例形式の問題を授業に盛り込むことや、政治分野の学習ではデジタル教材等を活用しながら、特に丁寧に理解させる必要がある。公民的分野は、身近な生活と関わってくる部分も多いので、日々のニュースなども適切に取り上げ、社会に対する関心を高めていくことも必要となる。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	76.6	75.0	70.3
	図形	70.6	65.2	63.4
	関数	68.7	66.4	51.5
	資料の活用	75.0	72.8	63.9
観点別	数学的な見方や考え方	68.9	65.5	55.1
	数学的な技能	76.5	74.2	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	70.5	68.3	64.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

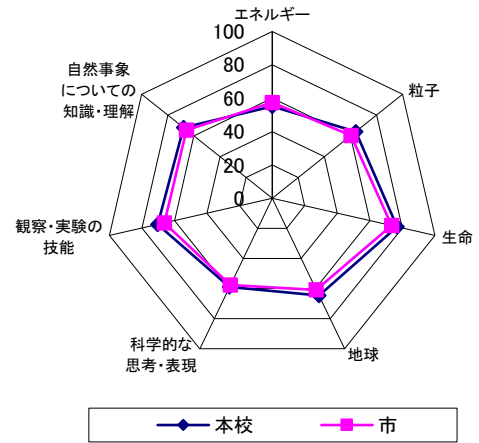
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○式の展開と因数分解、平方根の計算ではすべての項目で市の平均を上回っている。</p> <p>●方程式の解法や、平方根の大小、2次方程式の立式では市の平均を下回っており、苦手としている生徒がいることがわかる。特に方程式の解法が十分に理解できていないことがわかる。</p>	<p>・おおむね良い成績を残している。式の計算の分野では、数学的な考え方が身につけている生徒が多い。しかし、方程式の解法が身につけていない生徒が少なくないこともわかる。授業で扱った日は解けているが、時間が経つと忘れてしまう生徒がいるので、基本的な内容については繰り返し授業で扱うように意識し、指導を行う。</p>
図形	<p>○作図や辺の長さ、角度を求める問題において、市平均を上回っている。</p> <p>●証明の意義について理解しているかを問う問題においては、市平均を3.9ポイント下回っている。</p>	<p>・平面図形や空間図形における、基本的な定義・定理を理解して問題を解くことはできている。1・2年の既習事項は定期的に取り上げて、繰り返し指導していく必要がある。</p> <p>・証明問題の記述が苦手な生徒には、個別に丁寧に指導して、一人でも記述できるようような指導を行う。</p>
関数	<p>○比例の関係にあるxとyの表を読み取り、xとyの式で表すことができることやグラフの傾きや切片の意味を理解していることは、市平均を上回っている。</p> <p>○示された数学の問題が正しくないことを示されたグラフを根拠に説明すること、グラフをどのように活用すればよいか指摘することは、市平均を5ポイント上回っている。</p> <p>●変化の割合を求めることは、市平均を0.8ポイント下回っている。</p>	<p>・関数関係を理解するには、式・グラフ・表を関連させて考えさせることが必要である。引き続き授業で繰り返し取り上げることで定着させたい。</p> <p>・2乗に比例する関数についての問題が苦手である。授業で丁寧に課題を扱い指導する。</p>
資料の活用	<p>○度数分布表から、階級の相対度数を求めること、確率の問題を解くことについては、市平均を上回っている。</p> <p>●資料から中央値を理解する問題では、市平均を下回っている。</p>	<p>・資料の活用については、度数分布表から、相対度数や平均値、中央値など関連する用語をしっかりと理解し、繰り返し授業で取り上げることで、技能を定着させる。</p>

宇都宮市立横川中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	55.1	57.5	51.6
	粒子	64.1	60.3	53.0
	生命	76.7	73.4	67.9
	地球	64.6	60.9	57.4
観点別	科学的な思考・表現	58.9	57.7	51.5
	観察・実験の技能	70.3	66.2	58.2
	自然事象についての知識・理解	67.9	65.7	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

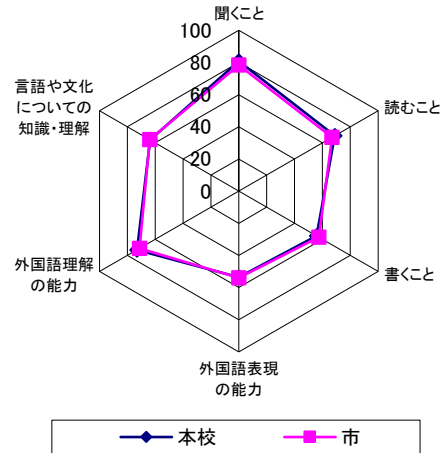
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●市の平均を2.4ポイント下回っている。 ○光の屈折や電流の性質についての設問では、市の平均を上回っている。 ●凸レンズによる像の大きさと焦点距離の関係についての設問や、仕事とエネルギーの大きさについての設問で、市の平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーの内容については、4領域の中で唯一市の平均を下回り、比較的、苦手意識を持っている分野である。公式を利用して解く知識・理解の問題や、科学的な思考についての問題を継続的に授業で取り入れる工夫をしていくことで、内容の定着を図っていく。 ・作図などの技能に関する問題については、学び合い活動を通して、さらに理解を深めていくよう指導する。
粒子	<ul style="list-style-type: none"> ○市の平均を3.8ポイント上回っている。 ○水溶液とイオン、物質の成り立ちについての設問については、すべての設問で市の平均を上回っている。特に、塩化銅水溶液の電気分解に関する知識理解の設問で、市の平均を10ポイント以上、上回っている。 ●水溶液の性質についての設問では、計算問題で市の平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年の水溶液とイオンの学習導入時に、2学年の既習内容である化学式や化学反応式の復習を取り入れたことが、知識・理解の定着につながっているため、今後も導入時に既習事項を扱うことに力を入れていく。 ・小単元テストを繰り返し行うことで成果が出たので、今後も継続していく。また、計算問題については、演習を多く取り入れ、丁寧に復習させていく。
生命	<ul style="list-style-type: none"> ○市の平均を3.3ポイント上回っている。 ○植物のからだのつくりとはたらき、動物の分類と進化に関するすべての設問で、市の平均を上回った。また、孫の代の遺伝子の組み合わせについての科学的思考を問う設問では、市の平均を10ポイント上回った。 ●遺伝子に関する基本的な設問でのみ、市の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の内容については、興味や関心を持っている生徒が多く見られる。多くの観察・実験を取り入れて、興味を持続させていく。 ・今年度同様、確認テストや小単元テストをこまめに行い、基本的な語句の定着を目指していく。
地球	<ul style="list-style-type: none"> ○市の平均を3.7ポイント上回っている。 ○火山に関する設問では、すべての設問で市の平均を上回っている。特に、火山岩のでき方に関する知識理解の設問で、市の平均を9ポイント以上、上回っている。 ●大気中の水蒸気に関する科学的な思考を問う設問で、市の平均をわずかに下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天気など身近な事象に関心を持たせ、日常生活と学習内容を結び付ける工夫をしながら、科学的な事象を説明できる表現力を育成していく。 ・小単元テストを繰り返し行うことで成果が出たので、今後も継続していく。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	80.7	78.4	72.9
	読むこと	68.8	66.9	63.2
	書くこと	55.7	57.5	58.4
観点別	外国語表現の能力	53.6	54.0	51.1
	外国語理解の能力	73.1	71.3	65.9
	言語や文化についての知識・理解	63.7	64.0	68.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○市の平均と比べ、2.4ポイント上回った。 集中して英文を聞くことができている。また、まとまりのある文を理解し、概要もつかめている。 ●要点を聞き取る問題で、市の平均を0.7ポイント下回っている。リスニングの内容によっては、不得意なものもあるようだ。	・帯活動や授業内での音読活動を効果的に取り入れる。 ・ALTとの対話活動を積極的に行い、質問されたことに対して適切な返答ができるようにする。 ・聞いた内容について、答え合わせの際にもう一度英文を見ながら聞くことのような指導をし、理解に繋げる。
読むこと	○市の平均と比べ、1.9ポイント上回っている。長文の大まかな内容は理解できている。 ●市と比べてポイントは上回っているが、「ブログの内容をふまえて感想文を書く」「英文と資料の情報・条件をもとに、相手の要望に対して適切に応じる」という問題では、正答率が45%前後と低い。	・教科書本文の音読を多く取り入れる。 ・まとまった文章から適切な内容を読み取る練習をする。また、長文を読む際にも、時間制限をして読む活動も効果的である。
書くこと	○市の平均と比べて1.8ポイント上回っている。 ●It is ~for...の語順が理解不十分である。また、場面に応じた英作文や、whatと最上級を使った英作文も苦手のようで、市の正答率よりも4.5ポイント低い。	・授業で、帯活動などを使って簡単なテストを取り入れる。また、課題でワークなどを出した際も、正確に答え合わせができているかなど、丁寧に見ていく必要がある。 ・条件作文の練習を取り入れる。 ・単語の基礎的な力の向上に力を入れる。

宇都宮市立横川中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的事項の定着を図る「わかる授業」の展開	各教科において、基礎的・基本的事項の定着のため、小テストなどによる反復学習を行っている。また、授業ではTTや習熟度別学習を取り入れ、放課後学習相談も年25回実施している。	すべての教科の領域・観点等において、市平均を上回っている。昨年度のとちぎっ子学習状況調査では、社会と理科が市平均を下回っていたので、基礎的・基本的な力がついてきたと思われる。今後も各教科や各学年で、小テストを行うなど継続して指導していく。
全教科における思考力・判断力・表現力を伸ばす言語活動の充実	全教科において、「見せ合い授業」などを行い、学年や各教科各単元に応じて、言語活動の充実のための授業を展開している。	「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答が全学年では80%以上である。しかし、「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。」の肯定的回答が2・3年生では70%以上で、市平均を上回っている。しかし、1年生は60%以上で、市平均を下回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・基礎的・基本的な力が定着する授業の展開の改善について
教科や学年の実態に合わせて、基礎的・基本的な力が定着するような確認テストを実施する。そのために自主学習で繰り返し学習するよう促す。授業においても、各単元の導入などで既習事項を確認して進めるなど、継続して指導する必要がある。
- ・話し合いや発表の仕方の工夫や改善
1学年から各教科で、ペアや少人数による活動を通して、発表することに抵抗がなくなるような機会を増やす。また、友だちの考えに「肯定」「疑問・質問」「否定」など自分なりの考えをもって聞くことができ、さらによりよい考えが創造できるような、深い思考を伴う「読む」「書く」「話す」活動ができるよう工夫する必要がある。